

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを順序立てて話したり、言葉遣いに気を付けて話したりすることに課題がある。思ったことをすぐに話そうとする児童がいる。 ・一斉指導した後に、同じことを質問したり、発言したりする児童が何人かいる。 ・想像を広げて読み、物語の登場人物の気持ちや言葉を考えることが苦手な児童がいる。 ・助詞の使い方や拗長音などの表記の習熟が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し方、聞き方のルールを繰り返し確認し、意識を促す。日直のスピーチや授業中に、皆に向かって話したり、質問したりする場を設ける。 ・見通しをもって学習できるように、黒板に順序を示す。 ・絵や写真、実物を見せたり、動作化を取り入れたりして、イメージを膨らませやすくする。自分で考えたあと、2人組で互いの考えを交流する場を設け、考えを広げる。 ・けやきタイムや家庭学習で繰り返し取り組ませ、習熟を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日直のスピーチでは、テーマに沿って伝えたいことを話すことができるようになってきた。 ○黒板に順序を示すことによって、見通しをもって学習することができた。 ○実物を見せたり、動作化したりすることで、イメージを膨らませて読むことができた。 △最後まで話を聞くことができず、思ったことをすぐに話してしまう児童が数名いる。時と場を考え、相手に応じた話し方を今後も指導する。 △助詞の使い方や拗音、拗長音の使い方は、個人差があるので、繰り返しの指導が必要である。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・計算はできるが、問題文を読み、式に表すことが苦手な児童がいる。 ・自分の考えを広げたり、深めたりすることが十分でない。 ・集合数と順序数の違いについての理解が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物や半具体物を使った操作活動を多く取り入れ、加法や減法の意味理解や計算方法の理解につなげ基礎基本の定着を図る。 ・自分で考える時間の後、2人組での対話の場面を設定し、自分の考えと比べて「同じ考え」「違う考え」など聴く視点を意識できるようにする。 ・ICT機器を効果的に活用し、確実な理解を図るとともに、授業以外の場面でも、集合数や順序数の違いを実感できるような活動を取り入れ、意識を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体物や半具体物を使って学習することで、加法や減法の意味理解につながった。 ○2人組での対話の場面を設定することで、自分の考えを相手に伝えることができた。 ○ICT機器を活用することで、問題場面の理解が深まった。 △計算はできるが、文章題になると式に表すのが苦手な児童がいる。また、答えの単位の書き方が分からなくなってしまう児童が何人かいるので、繰り返し文章題の練習をしていく。 △自分の考えを伝えることはできるが、考えを広げたり、深めたりするまでは至っていないので、考えが深まるような対話の場をつくる。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・自分中心に考えることがまだ多く、人との関わりが薄いため、関わりを多くもたせる必要がある。 ・季節の変化の中で、諸感覚を使って感じたり、物事を比較したりしながらの気づきに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や他学年、教職員、地域の方と関わり合う機会を増やす。体験活動を積極的に取り入れる。活動後に振り返りの時間を設け、互いのよさに気付くことができるようにする。 ・体験学習を積極的に行う。諸感覚をはたらかせた学習をするために、活動の前にねらいを確認し、目的意識をもたせる。友達のよい気づきを紹介したり、教師が価値付けたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と一緒に活動したり、2年生と交流したり、教職員にインタビューしたり、地域の方に昔遊びを教えていただいたりする中で、相手のことを考えて活動することができた。 ○活動の前にねらいを確認することで、目的意識をもって活動に取り組むことができた。 △活動後、「楽しかった」で終わり、体験を気づきや学びに広げていくことが課題である。体験した後に振り返りカードを活用し、よい気づき紹介し共有していく。

<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・素早く集合・整列したり、きまりを守って安全に活動したり、集団に合わせて行動しようとする意識が低い児童がいる。 ・自分の体をうまく操作できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の前にきまりを確認し、どの学習においてもきまりを守って楽しく活動できるようにする。 ・様々な動きを体験させ、児童同士がよさを見付けたりアドバイスし合ったりする場面を設ける。 	<p>○全体的には集合・整列することが素早くできるようになってきた。</p> <p>○スモールステップで段階をおって練習することで、様々な動きに挑戦し意欲的に取り組んでいた。</p> <p>△自分のやりたいことを優先させ、きまりを守って安全に活動する意識が低い児童が数人いる。なぜきまりを守って活動するのか理由を考えさせ繰り返し指導していく。</p> <p>△手足の協調運動や、他の人の動きを真似する運動が苦手な児童が多い。これからも、様々な動きを体験させる必要がある。</p>
<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・元気に歌ったり友達と仲良く手遊びをしたり、楽しく活動をしている。 ・わらべうたでは、ペアで協力して交流することができる。 ・ひらがなを読むスピードが遅かったり、器楽では、指がうまく動かせなかったりする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律に合わせて言葉がついていけない児童のために、デジタル教科書を用いてテンポをおそくして練習をしたり、拡大文字のプリントを用意したり、教材を工夫する。 ・鍵盤ハーモニカの学習では指を丸くする、小節のはじめの音だけを演奏する、音譜通りに演奏する、運指を考えて演奏するなど、個々にあったレベルを設定する。 	<p>○音楽に合わせて歌詞を目で追えない児童のために、デジタル教科書でテンポを遅くしたり、イラストを用いて歌詞の意味を写真で示したり、音をゆっくりにしたり視覚化する工夫をした。</p> <p>△けんばんハーモニカでは、運指を考えてなめらかに演奏することが難しい児童がいた。</p>
<p>図画 工作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発想が豊かに様々なものをつくることができず、型にはまってしまう児童がいる。 ・自分の活動に自信がもてない児童がいる。 ・身近な自然や人工物を基に思い付いてつくる体験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デモンストレーションを何人かの児童にやってもらい、いろいろな方法があることを実感させる。 ・作例や見本を示し、活動の見通しをもち、自分のイメージを広げる。児童同士で見せ合う場面を設定し、互いのよさを伝え合う。 ・身近な自然や人工物の材料を十分に用意し、発想を広げる児童の柔軟な思考を大切にする。 	<p>○作例や見本を示すことで、活動の見通しをもち、意欲的に取り組む児童が多かった。</p> <p>○児童がイメージをもつための時間を十分に確保したり、発想豊かに創作活動に取り組めるよう様々な材料を準備したりしたことで、活動の幅が広がった。</p> <p>△見本を示すと、似たような作品を作ってしまう児童が何人かいた。見本を示しすぎないように、児童の発想を大切にする。</p>